

## 2014年 中国土木水利工程学会(台湾)年次大会参加報告

中国土木水利工程学会（以下 CICHE;台湾の土木学会に相当）の年次大会（2014年12月6～7日）に土木学会の代表として参加しました。会場は南部・高雄市の Garden Villa ホテルでした。CICHE は土木学会との提携歴が最も長い海外学会であり、活発な交流を行ってきました。今回、土木学会からの参加者は土木学会国際センター長上田多門氏（北海道大学教授）、国際センター次長山川朝生氏（日本工営）、国際フォーラム発表者として中村 光氏（名古屋大学教授）、交流グループ台湾担当の Ellen Wang 氏(近代設計) と大内（高知工科大学）の5名でした。



国際センター  
台湾 Gr.リーダー  
大内 雅博



開会式にて呂 良正会長よりお祝いの品を  
受け取る上田国際センター長(写真-1)

CICHE の年次大会は土木学会の総会と全国大会を合わせたようなものであり、例年11月中旬または下旬に開催されていますが、今年度は11月21日の土木学会100周年記念式典開催のために台湾側が便宜をはかり、開催日を後ろにずらして下さいました。これまでは午前中に総会・特別講演・セレモニー、午後に研究討論会が行われる1日の開催が通例でしたが、今回はもう1日追加して国際ワークショップが開催されました。開会式では、昨年就任した呂 良正会長（国立台湾大学教授）から、土木学会創立百周年のお祝いの品を頂戴し、代表して上田多門国際センター長が受け取りました（写真-1）。

CICHE 年次大会では各研究部門に分かれた論文募集による研究発表会は無く、専ら土木全体に関わるテーマに関する研究討論会が複数同時並行で行われています。例年、その中の一つが英語による国際ラウンドテーブルミーティングでしたが、今回はこれを1日分の行事「土木工学コミュニティの影響と国際化の向上に関する国際ワークショップ」として独立させたものでした。日本、韓国、香港と台湾から合計6件の話題提供がありました。日本からは、中村 光教授による「土木学会の一般社会との関わり方：土木学会をもっと有効にするためには」と、上田多門教授による「技術的および教育的能力の向上のためのアジアにおける国際協力」の話題提供があり、大いに注目を集めて活発な議論が行われました。

12月6日（土）の午後はテクニカルツアーが組まれ、高雄市近郊都市鉄道の地下化・改良工事現場を視察しました。既存の高雄駅を線路と共に地下化しさらに5つの地下新駅を建設するもので、開業中の高雄地下鉄と直角に交差する場所での技術的難度の高い工事です。2017年12月完成予定で大規模な地下掘削が進行中でした。写真-2は視察中に説明を受けた旧高雄駅で、日本が1941年に完成させた（施工は清水建設）ものです。戦後使われることはありませんでしたが、現高雄駅を建設する際に横移動させて保存し、今は鉄道関係を含む展示室として利用されています。



旧高雄駅での集合写真（写真-2）

翌7日(日)の国際ワークショップで年次大会の行事は終了しましたが、その午後、呂会長以下のご配慮により日本の参加者のために烏山頭ダム周辺の視察をアレンジしていただきました。高雄から高速道路3号線を経由して約1時間の行程でした。嘉南農田水利會で説明を受けた後、八田與一像と記念館を経て、最近復元された当時の事務所と4軒の宿舎(八田氏邸の庭には妻の外代樹さんの銅像が建立)を案内してもらいました(写真-3)。



八田邸庭の外代樹夫人の銅像(写真-3)

烏山頭事業はすでに広く紹介されているので繰り返はしませんが、八田像には変わらず花が手向けられ、宿舎等が復元されたことでさらに訪れる人が増えているようでした。

CICHEでも今回、烏山頭事業を土木遺産に指定した(日本より遅れたことを残念がっておられましたが)ことで、呂会長としても現場を見たいとの意向ではありましたが、休日にもかかわらず土木学会出席者のために特別の対応をいただいたことに対し関係の皆さんに深謝する次第でございます。